

2025 年春季参加報告書

参加プログラム：ディーキン大学

参加時の学年：1 年生 学部：国際教養 学科：国際教養学科グローバルスタディーズ専攻

私は国際教養学部に所属しているため、英語を習う機会が一年通して多かったです。そのため、私はこの長期休みにどれくらい自分の英語力が海外で通用するのか知りたく留学に申し込みました。また、一か月ではあるものの英語に触れる機会をもっと増やすことによってスピーキング、リスニング力を高めたいとも思っていました。

私はスピーキングやオーストラリアのアクセントを事前に軽く学んでおり、また一年間英語を学んでいたこともあり、少なからず簡単な会話はネイティブともできるであろうと思っていました。しかし、オーストラリアについて間もなく、空港でネイティブと会話した際に全くと言っていいほど何も聞き取れず驚きました。実際、私は買い物をする際などネイティブの方と会話する機会があったのですが、全てちゃんと聞き取れたことは結局一度もありませんでした。正直ここまでネイティブとの会話に壁があるなんて思いもしませんでした。一方、学校ではネイティブでは無い我々と同じく英語を第二言語として学んでいる学生に多く出会いました。特にクラスでは中国の方と多く接する機会があり友達と呼べるくらいにまで一か月で関係を築くことができました。これらのことから私は英語を通して海外（ネイティブではない）の人と仲を深める事ができるのだと感じました。このように海外に一か月いたことで現段階の私の英語力を現実的に知ることができました。また、この短期留学中に私は本当に様々な場所に行き、日本では経験できないことを沢山しました。土日はツアーに参加するか自分たち自身で行動するなど活発に過ごしました。まず、メルボルンは自然が豊かで環境面で日本との違いを肌で感じ、日本ではあまりない色々な国の料理を食べました。また、博物館や美術館、教会や世界遺産をめぐることで歴史や文化を学ぶことができました。一度ホストファミリーと教会に私自身人生初めての礼拝に行き、礼拝の形式や雰囲気味わうことができました。このように、旅行では知る、感じることでできない多くの事をこの短期留学では経験することができると思います。そして、オーストラリアの文化や環境など肌で実感することによって、前より日本について少し客観的に見るできるようになったと感じました。

英語力も劇的とはいきませんが、英語を話すタイミングが増えたことにより、たまに意識せずスムーズに英語を言えることが増えました。理想としては日本語のように考えていることを全てスムーズに意識しないで話すこと。これに少しでも近づけたような気がします。また、留学中も英語でディスカッションをする機会が多かったが、少し複雑な説明をしようと思うと全くうまく喋れず悔しい思いもしました。多分半年、一年いればもっと多くのフレーズを意識せずに言うことが出来き、難しい内容を説明できるようになると思うと余計長期留学に行ってみたいと感じます。これ以外にも先ほど述べたようにネイティブのリスニングを聞き取ることなど多くの英語力の足りなさに気づきました。学校では文法を習う機会が多かったです。意外にも大学で文法は集中的に教わっておらず、留学に行く前は自分でも優先度を下げていたのですが、授業で取り扱った際思った以上に文法事項を自分が理解していなかったのにも驚きました。このような反省点を克服、向上させない限り長期留学に行く権利を手にするのは難しいと思います。とりあえず、短期留学を通して気づいた自分のリスニング力の足りなさ、文法力、複雑な説明を英語で言語化する能力の低さを上げていけるように今後過ごしていきたいと思います。リスニング力はひたすらネイティブの発音を聞くことだと思うので、一日に必ずなんかしらの動画やラジオを聴きリスニング力を向上させていきます。複雑な説明の言語化は文法とも大きく絡んでいると感じるのでまずは文法の見直しを行いたいと思います。これらを上達させ今後英語の資格を取り、長期留学に向けて頑張ってきたと思っています。もし長期留学に行けたとしたら、長期留学は今回と違って日本人がここまで多く居ないと思うので外国の知識ももっと多くつけていけたらとも思っています。